

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 6 月 23 日 (2005.6.23)

【公開番号】特開 2001-323235 (P2001-323235A)

【公開日】平成 13 年 11 月 22 日 (2001.11.22)

【出願番号】特願 2000-141682 (P2000-141682)

【国際特許分類第 7 版】

C 0 9 J 133/06

C 0 8 F 218/12

C 0 8 F 220/18

C 0 8 G 18/62

C 0 9 J 7/02

C 0 9 J 175/04

【F I】

C 0 9 J 133/06

C 0 8 F 218/12

C 0 8 F 220/18

C 0 8 G 18/62

C 0 9 J 7/02

Z

C 0 9 J 175/04

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 9 月 30 日 (2004.9.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

( a 4 ) その他の単官能ラジカル重合性モノマーの少なくとも 1 種

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

本発明の粘着剤組成物において、粘着付与樹脂 ( D ) の含有量は、アクリル系共重合体樹脂 ( A )、界面活性剤 ( B ) 及びポリイソシアネート化合物 ( C ) の合計量 1 0 0 重量部あたり、2 ~ 4 0 重量部、好ましくは 1 0 ~ 3 0 重量部である。粘着付与樹脂 ( D ) の含有量が 2 重量部未満の場合は、粘着剤組成物のタック及び接着力が低下し、4 0 重量部を超える場合は、粘着剤組成物の保持力が低下し、更に、塗工した際に凝集物が発生する傾向がある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

< 水性粘着剤組成物の製造法 >

本発明におけるアクリル系共重合体樹脂は、既知の重合方法の何れによっても得ることが出来、乳化重合や懸濁重合の他、有機溶媒中での溶液重合後、減圧下で有機溶媒を除去し転相により水性化する方法のいずれも可能である。中でも、水性媒体中、界面活性剤（Ｂ）及び粘着付与樹脂（Ｄ）の存在下に乳化重合する方法が好ましい。反応温度は、通常 40 ～ 95 、好ましくは 60 ～ 85 、反応時間は、通常 1 ～ 24 時間、好ましくは 2 ～ 8 時間である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

なお、上記のブレエマルジョンは、2 - エチルヘキシルアクリレート 78 部、メチルメタクリレート 18 部、2 - ヒドロキシエチルメタクリレート 2 部、メタクリル酸 0.5 部、アクリロニトリル 1.5 部、「エレミノール JS - 2」2.5 部と水 50 部の混合物をホモミキサーにて機械乳化して予め調製したものである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

< 水性粘着剤組成物の調製 >

実施例 1

製造例 1 で得られたアクリル系水性エマルジョン 100 重量部に対してロジンエマルジョン（荒川化学工業（株）製「スーパーエステル E - 650」）10 重量部およびポリイソシアネート（日本ポリウレタン（株）製「アクアネート 100」）0.5 重量部を添加した後に攪拌して水性粘着剤組成物を調製した。